

病害虫防除技術情報第5号

平成30年6月15日

三重県病害虫防除所

畦畔の2回連続草刈りが、斑点米カメムシ防除に効果的です

1. 対象作物 水稻

2. 対象病害虫名 斑点米カメムシ類

3. 発生状況等

米の品質低下への被害が大きい、斑点米カメムシ類が多く発生しています。米の品質を低下するアカヒゲホソミドリカスミカメやアカスジカスミカメの発生が多いことが、本年の特徴です。

圃場周辺の雑草地における斑点米カメムシ類の発生状況(2018年6月)

地区	調査 月日	調査 地点数	ホソハリカメムシ 成幼虫		クモヘリカメムシ 成幼虫		シラホシカメムシ類 成幼虫		アカスジカスミカメ 成虫		アカヒゲホソミドリカスミカ メ成虫	
			発生地点率 (%)	虫数	発生地点率 (%)	虫数	発生地点率 (%)	虫数	発生地点率 (%)	虫数	発生地点率 (%)	虫数
桑名	6/4	16	6.3	0.1	0	0	0	0	37.5	3.0	18.8	0.5
四日市鈴鹿	6/5	24	12.5	0.5	0	0	0	0	45.8	4.4	45.8	1.1
津	6/7	16	0	0	0	0	0	0	33.3	0.7	33.3	0.4
松阪	6/8	18	11.1	0.1	0	0	0	0	44.4	2.1	11.1	0
伊勢志摩	6/4,8	20	0	0	0	0	0	0	35.0	1.5	25.0	0.5
伊賀	6/6	14	0	0	0	0	0	0	7.1	0.1	0	0
紀州	6/5	8	12.5	0.1	0	0	0	0	50.0	2.1	25.0	0.3
県全体		116	5.9	0.1	0	0	0	0	36.4	2.1	23.7	0.5
10年平均			8.7	0.2	0.2	0.01	4.6	0.1	39.7	2.3	9.4	0.3

※畦畔、のり面、休耕地等における20回振りすくい取り調査

4. 生態と被害

斑点米カメムシ類は、水田畦畔に多く繁茂しているイネ科雑草の穂をエサにして繁殖し、イネの出穂とともに水田に侵入し斑点米被害を引き起こします。

特に小型のアカヒゲホソミドリカスミカメ等は、イネ科雑草の繁茂や高温少雨で増加する傾向が高いうえ米の収量よりも、品質における加害能力が高い斑点米カメムシとして、注意が必要です。

斑点米(着色粒)が1,000粒中に1粒以上混入すると、それだけで米の等級が2等以下に下がります。

5. 防除対策

(1)畦畔を斑点米カメムシのエサ場にしない

畦畔の草刈りをすると、次にイネ科雑草の穂がでるまで2~3週間かかります。そのため、本田の水稻の出穂2~3週間前と出穂期の2回除草が効果的です。出穂2~3週間前の1回除草だけでは、水稻の出穂期に、再び畦畔のイネ科雑草の穂がでてカメムシが本田に飛来します。

また、出穂期の1回除草だけでは、本田にカメムシを追い込んでかえって被害が大きくなります。

(2)薬剤防除

共同防除により広域でカメムシを防除することが最適ですが、個人防除の地域では出穂期以後の薬剤防除の準備をお願いします。

特にアカヒゲホソミドリカスミカメ等が多い場合は、乳熟期(出穂7～10日後)、特に穂ぞろい期にカメムシ類が多い場合は、糊熟期(出穂10～20日後)に適用のある薬剤で防除してください。

粒剤は乳熟期に散布してください。田面を露出させない程度に湛水してから散布してください。薬剤成分が十分、稲株に吸収されて効果的です。

水稻出穂期の目安と除草時期(コシヒカリ(松阪市嬉野)の場合)

移植日	幼穂形成期	除草(1回目)	出穂期予測 (除草2回目)	成熟期予測
4月20日	6月20日	6月下旬	7月16日	8月19日
5月1日	6月28日	7月上旬	7月23日	8月26日
5月10日	7月4日	7月上旬	7月28日	8月31日

アカヒゲホソミドリカスミカメ (左) とアカスジカスミカメ (右) の写真 (体長: 5 mm)



農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。